



Topics 第17回

高知県知的障害者育成会職員研修会報告

今年度の法人研修は、香南くろしお園・第2香南くろしお園が担当となり「やりがいと誇りの持てる仕事に向け」といったテーマで開催しました。

近年、福祉の現場においては、人材不足による業務、事務作業の増加が悪循環を招き、職員の疲弊が深刻化している現状があります。本来の福祉とは、人が輝きやりがいを持てる職場ではないか。そうした思いから、検討を重ね2名の講師の方に講演を依頼しました。

一つ目の講演の青木先生はフードバンク高知代表・高知CAP代表・暴力被害者のシェルター立ち上げなど多方面で活躍されています。

講演の依頼と打ち合わせを兼ねて青木先生をお伺いしたのが、7月の西日本豪雨の数日後でした。打ち合わせの中でフードバンクの取り組みやシェルターの話をお聞きしましたが、もっとも印象的だったのは、「この日の打ち合わせ後に、豪雨被災地へ支援物資・水を届けに行く」といった話でした。

西日本豪雨後は連日の猛暑日で、この日も日中は立っているだけでも汗が吹き出るほどの気温でした。また、高速道路も高知道の崩

落から対面交通で復旧したばかりでした。

そうした中、シェルターの運営やフードバンクの活動の合間に支援物資を集め、深夜に高速道路を飛ばして愛媛まで運ぶ、そのエネルギーに圧倒され、またそのバイタリティはどこから来ているのか素朴な疑問も持ちました。

今回の講演でも、そうした青木先生の活動的な取り組みの紹介がありました。

DVや暴力の被害者シェルターの活動の過程から、食べられる食料が廃棄されている現実を知りフードロスの取り組みを始めた事など、別々の分野で取り組まれていると思っていた事が、全て繋がっていた事も講演を聞いて分かりました。

賞味期限やフードロスの現状を聞くと知らない事が多く、「食」という生きるうえで大切な事に対して無関心になっていないかと考えさせられました。

講演の最後に、どこからその原動力が湧いてくるのかという質問に「目の前に困った人がいるのを放っておけない」との言葉を聞いて、打ち合わせの時に感じた素朴な疑問が、この一言で納得できた様に思います。

やりがいと一言では言い表せ

ない、今回のテーマを超えた部分であったと感じました。

懇親会では、青木先生から「講演で話したかった事なんだけど」と踏み込んだお話も聞くことが出来ました。法律や制度の狭間で対応が困難な事、DVから殺人事件に発展した事例、シェルターを利用されている中で障害を抱えた方の事例。最前線で活動されているからこそ感じる事や制度の不備、地域の課題など、とても貴重なお話を聞くことが出来ました。

自分もフードドライブなど出来る事を何か一つでも協力したいと思いました。

二つ目の講演では、日本ベップトーク普及協会代表理事の岩崎由純先生に「やる気を引き出す魔法の言葉」と題してご講演いただきました。

岩崎先生は、女子バレーボール実業団のチームスタッフとしてプロスポーツの第一線で活躍され、その後アメリカでの留学中にベップトークと出会い、現在ベップトークの講演やセミナーを多く開催されています。

ベップトークとは、もともとアメリカでスポーツの試合前に監督やコーチが選手に対して行う激励の短いスピーチの事です。ポジ

ティブで短く簡潔に伝える事で、激励を受けた方は成功するイメージを持ち、やる気になり自分の力を最大限に発揮出来ます。

ベップトークという言葉を知ったのは初めての方も多かったと思いますが、岩崎先生の分かり易い話に、「自分にも出来る」「日々の生活・仕事に取り入れる事が出来る」と会場の雰囲気が変わったように感じました。

自分自身この講演を聞き、家族や職場・利用者さん達を思い浮かべ、やる気も出てきました。

また、月に1回の学習会等で各事業所が取り組んできた事を話し合う機会がありますが、利用者さんの良い所や得意な事を伸ばす取り組みや、利用者さんの特徴をネガティブに捉えずリフレーミングする事など、自分達が既に支援として実践している事があります。

それら支援の理論的な部分は、今回のベップトークとも共通する部分であったと感じました。

利用者さんに掛ける言葉、同僚、仲間、掛ける言葉、家族や友人に掛ける言葉、そこには信頼関係が無くては成立しない事を講演の中でも強くお話しされていました。

今回のベップトークを単にテク

ニックとして捉えるのではなく、信頼関係の上に成り立つ事を理解した上で、日々の生活・支援に生かしていければと思います。

懇親会では、参加された職員が「出来る、出来る、ぜったい出来る」とビール片手に呟いているのを聞き、思わず笑ってしまいました。その時に思ったのは、ポジティブな言葉には、周囲を笑顔にする、楽しく元気にするという力があるということです。私たちは利用者さんの生活の一部に関っています。利用者さんと向かい合う職員が笑顔で関る事が、利用者さんの人生をより豊かにするのではないのでしょうか。

「福祉は人が輝き、やりがいを持てる」という今回のテーマに対しての一つの答えのように思います。

今回の研修には150名の方が参加されました。アンケートの集計では「他分野の講演や前向きになれる講演が今後も聞きたい」「障害分野での専門性を高められるような講演が聞きたい」「今回の講演内容が良かった」といった感想・意見が多くあり、今後に生かしていきたいと思えます。ありがとうございました。

香南くろしお園 山崎真平



褒状 「おひるね」 李栩(りく)



褒状 「もも」 奈良 美喜子



「ピンクのすこい夕焼け」 高橋 和幸



「ヤクルトカロリーハーフ配達中」 中島 麻里



「トマト」 中屋 幸恵



「志」 武樋 忠志



「カミナリ」 氏原 敦志



「ドリームランド」 藤原 千里



「元気の木になるみんなの実」 地域活動支援センター「南国」



「キノコ」 安岡 加代子



「ドラム」 小松 範之



「樹」 安藤 充洋



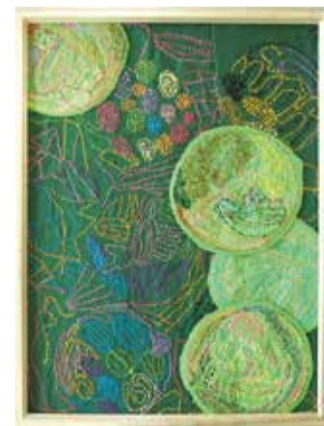
「空飛ぶブルーインパルス」 横川 毅



「明玲の世界」 北岡 明玲



「ゆりworld」 筒井 ゆり



「モネの庭」 有光 多美



「丸が生まれるとき」 笹岡 政代

Art

第22回 スピリット アート (高知県障害者美術展)

高知県の主催する美術展が開催されました。今年は過去最多となる1187点の出品があり、絵画、立体、工芸、書道、写真の5部門で256点の入賞、入選作品が展示されました。育成会関係の入選、入賞者は以下の皆さんです。おめでとうございます。

高知県障害者美術展 入賞・入選者

- かがみの育成園 ●立体 入選:柿内 貞男 ・ 藤原 千里 ●絵画 入選:田内 直也 ・ 武井 育美 ・ 筒井 ゆり
- ウイッシュかがみの ●絵画 入選:澤井 菊美 ・ 公文 大彰 ・ 奈良 美喜子 ・ 北岡 明玲 ・ 鍵山 美波
- 書道 褒状:奈良 美喜子 入選:中澤 望 ・ 小松 範之 ・ 門脇 智子 ・ 武樋 忠志 ・ 枝重 厚子
- 地域活動支援センター「南国」●工芸 褒状:李栩(りく) ●立体 入選:地域活動支援センター「南国」
- ライフサポート「大津」●絵画 入選:氏原 敦志
- 香南くろしお園 ●書道 入選:小松 恵子 ●絵画 入選:宮 康二郎 ・ 中島 麻里 ・ 長瀬 康美 ・ 横川 毅
- 多機能事業所「アオ」●書道 入選:小田 茂久 ・ 水野 達美 ●写真 入選:高橋 和幸
- パワーズ山田 ●書道 入選:鍵山 雪絵 ・ 安藤 充洋 ・ 小松 悦子 ●写真 入選:中屋 幸恵
- 絵画 入選:山本 広志 ・ 橋本 加代 ・ 栗本 美恵 ・ 浜田 敏邦 ・ 真辺 弘久 ・ 倉本 暁
- 崎山 健次 ・ 賀門 路子 ・ 北村 みき ・ 笹岡 政代 ・ 岩浅 恵美子 ・ 宮田 千代
- 工芸 入選:安岡 加代子 ・ 田中 鈴子 ・ 中屋 幸恵 ・ 鍵山 雪絵 ・ 笹岡 政代 ・ 川村 次朗
- 安藤 充洋 ・ 矢野 仁一 ・ 有光 多美



「観音様」 田内 直也

Report

ラベルを貼って!!

～地域おこしのお手伝い～

地域活動支援センター「香美」の取り組み

当 活動支援センターにおける地域活動の一番の目的は、地域で暮らす障害者の方々がセンターに通所され、日中の様々な作業に取り組むことで、規則正しい生活習慣を身につけたり、集団での人間関係の持ち方や作業への集中力・持続力を培い、就労へとつなげていくことです。作業は午前9時から12時、午後1時から4時までとなっており、担当職員が週間・月間の作業やレクリエーション等を計画して日々の取り組みを行っています。そのため、活動の一番の目的である「就労を意識する」・「就労につながる」そんな働く意欲を養える作業はないものかと思案していました。

そんな折、香美市土佐山田町にIターンされ県内唯一となるビール醸造所を開設し、「高知が誇る一品にしたい!」と活躍されている方が、ビールの製造・出荷の過程で地域に暮らす障害者の方々の協力・参加を提案



され、障害者事業所等に対し協働への説明会に参加したのは丁度その頃でした。この作業なら通所されている障害者の方々に「仕事をしている」・「何か人の役にたっている」ということが実感してもらえるのではないかと職員間で話し合い、作業に取り組むことに決めました。

その作業は、丸いビール瓶の表面に2種類の銘柄ラベルを貼り(これを貼った部分が表面となります)、そして裏に1種類の成分内容や賞味期限等を表示したラベルを貼るものです。ところが取り組み当初、丸いものは転がるの道理で、そのままの状態では瓶に平行にぴったりと貼るのは職員でも大変なものでした。この作業を容易にするため、瓶を固定し、45度に立ち上げる補助具を作成しました。おかげで作業の能率はアップし、他の障害者事業所の職員さん達から参考にさせて欲しいとの依頼も受けました。現在、作業時間は午前中の1時間半程度で、週3日を目安に行っています。作業量は、2日で1ケース(35本)の割合です。また、作業のやりがいを高めると同時に慰労もかねて月に1～2回さやかな茶話会も行っています。



このように7月より試行錯誤の取り組みをはじめた作業も、数ヶ月が過ぎようとしていたある日、作業に参加されている方々から、作業への不平・不満があがりはじめました。それは、「作業がうまくできる人」、「作業がうまくできない人」、「作業そのものができない人」という集団の中で、作業は参加者全員による協働の結果だという同等の評価は、「作業がうまくできる人」から不平・不満があがることはごく自然のことでした。当然作業も能率がさがり、粗雑さが目立ち同時に参加者同士の中に気まずい雰囲気まで生まれはじめました。

ラベル貼りという作業に限らず、何らかの作業に取り組んだ時、かならず中だるみという時期がやってくるものです。こうした雰囲気を改善するため職員間で話し合った答えは、まずこの作業をはじめた原点を再確認しようということでした。それは、今の作業が「就労を意識する」・「就労につながる」という地域活動の重要な目的を実現するためのものだからです。そのためには、参加者の



声・意見に耳をかたむけながらも、取り組みを始めた原点、つまり「就労を意識する」・「就労につながる」という、当センターが一番の目的とすることからぶれることなく作業を続けていくという答えでした。それは、「作業がうまくできる人」はさらに作業能力を高め、「作業がうまくできない人」はできるよう工夫をし、「作業そのものができない人」は作業の過程のどこかにできることを見つけること。そのようにして作業を進めていくという答えでした。能力にはもともと違いがあるもので、それぞれの能力を生かし作業に取り組むこと、それが仕事・就労することへの一歩だと確認をしました。そして今、作業に参加されている方々と職員は「就労に対する気持ち」・「就労に対する意識」という心のあり方をどのように築きあげていくのかという、新たな課題に対しラベル貼りの取り組みを通して共に試行錯誤の成長を続けています。



地域活動支援センター「香美」 岡田幹雄

People

「スマイル会 (在宅本人会)」 日帰り旅行



交えての会を行い、年に一度の日帰り旅行や本人さん達のみでのボウリング大会、ビアガーデン、食事会などの行事を企画して会員さんにお知らせしています。日帰り旅行は特にみなさん楽しみにされており、毎年参加してくれる方もいます。

今年貸し切りバスで、須崎市の「土佐魚菜市場」でかまぼこの製造体験、中土佐町の「西岡酒造」で高知県最古の酒蔵の見学、



お酒の試飲、道の駅「なかとさ」で買い物をしました。

参加された本人さんの感想を紹介します。▶三谷五月さん…スマイル会の日帰り旅行は3回目だったので、今回もたくさんの参加があったので、企画して良かったです。かまぼこ作りは初めてで上手にできるかなと、かなり集中しないとできないと思いました。初めてやってみて、とても難しいことだとわかりました。

昼食もおいしく、ゲームも楽しく、お酒が飲めなかったことが残念でした。
▶一圓佳子さん、中屋幸恵さん…ちくわとか角天をじぶんで作ってたのしかった。お兄さんが教えてくれてうれしかった。
▶西尾陽成さん…今回のイベントはみんなが笑顔だったので成功だった。バスを待つ間も

ワクワクして楽しかった。

▶渡辺和也さん…かまぼこ、角天つくるのがむずかしかった。家族みんなで食べておいしかった。アイスクリーム食べすぎました。かつおのソフトクリームおいしかったです。

▶三谷理志さん…かまぼこ体験は難しかったけど、楽しかったかな。バスの中での司会はうまくできました。

本部 小松真奈美



9月16日に毎年恒例のスマイル会の日帰り旅行に行ってきました。スマイル会では、リーダー会や会員さんを

Report

平成29年度 社会福祉法人 高知県知的障害者育成会 決算書

法人単位事業活動計算書 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日) (単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	075 就労支援事業収益	97,346,631	107,976,907	△ 10,630,276
	076 障害福祉サービス等事業収益	1,413,079,510	1,382,909,039	30,170,471
	081 経常経費寄附金収益	960,308	1,811,602	△ 851,294
	082 その他の収益	0	1,087,128	△ 1,087,128
	サービス活動収益計(1)	1,511,386,449	1,493,784,676	17,601,773
	費用			
	021 人件費	882,068,886	864,985,861	17,083,025
	022 事業費	150,742,077	188,783,867	△ 38,041,790
	023 事務費	146,686,616	160,155,731	△ 13,469,115
	024 就労支援事業費用	167,668,230	139,275,651	28,392,579
	028 減価償却費	99,646,660	82,156,445	17,490,215
	029 国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 39,199,209	△ 38,384,435	△ 814,774
030 徴収不能額	84,276	0	84,276	
サービス活動費用計(2)	1,407,697,536	1,396,973,120	10,724,416	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	103,688,913	96,811,556	6,877,357	
サービス活動外増減の部	収益			
	084 受取利息配当金収益	62,297	143,770	△ 81,473
	089 その他のサービス活動外収益	13,673,677	6,169,947	7,503,730
	サービス活動外収益計(4)	13,735,974	6,313,717	7,422,257
	費用			
	033 支払利息	1,224,975	449,629	775,346
	038 その他のサービス活動外費用	532,488	255,213	277,275
サービス活動外費用計(5)	1,757,463	704,842	1,052,621	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	11,978,511	5,608,875	6,369,636	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	115,667,424	102,420,431	13,246,993	
特別増減の部	収益			
	090 施設整備等補助金収益	11,131,000	55,023,200	△ 43,892,200
	091 施設整備等寄附金収益	0	3,000,000	△ 3,000,000
	093 固定資産受贈額	0	10,570,839	△ 10,570,839
	094 固定資産売却益	156,077	0	156,077
	特別収益計(8)	11,287,077	68,594,039	△ 57,306,962
	費用			
	041 固定資産売却損・処分損	409,625	895,613	△ 485,988
	043 国庫補助金等特別積立金積立額	11,131,000	65,594,039	△ 54,463,039
	特別費用計(9)	11,540,625	66,489,652	△ 54,949,027
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 253,548	2,104,387	△ 2,357,935	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	115,413,876	104,524,818	10,889,058	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,205,158,116	951,104,380	254,053,736
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,320,571,992	1,055,629,198	264,942,794
	101 基本金取崩額(14)	0	0	0
	102 その他の積立金取崩額(15)	38,027,053	212,636,302	△ 174,609,249
	051 その他の積立金積立額(16)	1,828,086	61,335,371	△ 59,507,285
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,356,770,959	1,206,930,129	149,840,830

法人単位資金収支計算書 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日) (単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	収入			
	155 就労支援事業収入	96,958,000	97,346,631	△ 388,631
	156 障害福祉サービス等事業収入	1,413,574,000	1,413,079,510	494,490
	162 経常経費寄附金収入	496,000	960,308	△ 464,308
	163 受取利息配当金収入	69,000	62,297	6,703
	164 その他の収入	12,912,000	13,621,027	△ 709,027
	事業活動収入計(1)	1,524,009,000	1,525,069,773	△ 1,060,773
	支出			
	111 人件費支出	907,054,176	882,535,923	24,518,253
	112 事業費支出	162,118,000	150,460,875	11,657,125
	113 事務費支出	154,468,709	146,649,556	7,819,153
	114 就労支援事業支出	163,653,000	159,610,511	4,042,489
	118 支払利息支出	1,226,000	1,224,975	1,025
120 流動資産評価損等による資金減少額	85,000	84,276	724	
事業活動支出計(2)	1,388,604,885	1,340,566,116	48,038,769	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	135,404,115	184,503,657	△ 49,099,542	
施設整備等による収支	収入			
	166 施設整備等補助金収入	11,133,000	11,131,000	2,000
	169 固定資産売却収入	156,000	716,080	△ 560,080
	施設整備等収入計(4)	11,289,000	11,847,080	△ 558,080
	支出			
	121 設備資金借入金元金償還支出	13,680,000	13,680,000	0
	122 固定資産取得支出	86,435,582	85,061,161	1,374,421
施設整備等支出計(5)	100,115,582	98,741,161	1,374,421	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 88,826,582	△ 86,894,081	△ 1,932,501	
その他の活動による収支	収入			
	175 積立資産取崩収入	38,668,000	38,789,045	△ 121,045
	183 その他の活動による収入	0	507,121	△ 507,121
	その他の活動収入計(7)	38,668,000	39,296,166	△ 628,166
	支出			
	129 積立資産支出	9,079,770	8,880,734	199,036
	137 その他の活動による支出	568,000	804,050	△ 236,050
	その他の活動支出計(8)	9,647,770	9,684,784	△ 37,014
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	29,020,230	29,611,382	△ 591,152
	予備費支出(10)	7,500,000	0	6,814,649
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 685,351	127,220,958	△ 58,437,844	
前期末支資金残高(12)	709,459,529	709,459,529	0	
当期末支資金残高(11)+(12)	778,242,643	836,680,487	△ 58,437,844	

※予備費支出 △ 685,351 円の内訳は以下のとおりである。
 土地建物賃借料支出 △ 136,709 円
 構築物取得支出 △ 328,582 円
 職員給料支出、退職給付支出、退職給付引当資産支出 △ 88,520 円
 法定福利費支出 △ 96,540 円
 差入保証金 △ 35,000 円

法人単位貸借対照表 (平成30年3月31日現在)

資産の部				負債の部			
科目	当年度末	前年度末	増減	科目	当年度末	前年度末	増減
001 流動資産	947,965,702	783,119,892	164,845,810	011 流動負債	164,149,346	133,273,633	30,875,713
01 現金預金	670,728,583	534,378,240	136,350,343	02 事業未払金	34,073,554	17,846,837	16,226,717
03 事業未収金	235,699,108	236,638,620	△ 939,512	06 1年以内返済予定設備資金借入金	13,680,000	13,680,000	0
04 未収金	2,000	3,118,436	△ 3,116,436	13 未払費用	68,911,819	51,210,398	17,701,421
05 未収補助金	1,162,000	1,133,200	28,800	14 預り金	137,529	72,522	65,007
06 未収収益	26,868	23,735	3,133	15 職員預り金	7,941,227	4,278,716	3,662,511
08 貯蔵品	0	15,000	△ 15,000	16 前受金	202,910	225,160	△ 22,250
12 商品・製品	18,176	26,730	△ 8,554	21 賞与引当金	39,202,307	45,960,000	△ 6,757,693
15 立替金	2,307,634	139,221	2,168,413				
16 前払金	30,002,810	20,218	29,982,592				
17 前払費用	5,598,190	5,154,677	443,513				
24 仮払金	2,420,333	2,471,815	△ 51,482				
002 固定資産	2,289,521,675	2,345,838,944	△ 56,317,269	012 固定負債	265,099,579	273,239,987	△ 8,140,408
001 基本財産	1,573,227,061	1,628,866,947	△ 55,639,886	01 設備資金借入金	201,105,000	214,785,000	△ 13,680,000
01 土地	141,870,392	127,668,392	14,202,000	07 退職給付引当金	63,994,579	58,454,987	5,539,592
02 建物	1,431,356,669	1,501,198,555	△ 69,841,886	負債の部合計	429,248,925	406,513,620	22,735,305
002 その他の固定資産	716,294,614	716,971,997	△ 677,383	純資産の部			
02 建物	24,571,207	19,534,851	5,036,356	013 基本金	335,928,266	335,928,266	0
04 構築物	64,748,797	51,976,841	12,771,956	01 第一号基本金	297,912,982	297,912,982	0
05 機械及び装置	3,436,432	3,177,636	258,796	03 第三号基本金	38,015,284	38,015,284	0
06 車輛運搬具	22,764,655	18,124,472	4,640,183	014 国庫補助金等特別積立金	646,824,747	676,445,387	△ 29,620,640
07 器具及び備品	52,672,804	51,418,562	1,254,242	015 その他の積立金	468,714,480	504,913,447	△ 36,198,967
08 建設仮勘定	6,955,200	560,000	6,395,200	01 施設整備等積立金	444,000,000	479,000,000	△ 35,000,000
10 権利	2,156,216	2,323,806	△ 167,590	02 人件費積立金	13,000,000	13,000,000	0
11 ソフトウェア	771,623	538,473	233,150	03 備品等購入積立金	1,599,000	1,599,000	0
13 投資有価証券	10,000	10,000	0	06 工賃変動積立金	4,073,000	4,073,000	0
17 退職給付引当資産	63,994,579	58,454,987	5,539,592	07 設備整備等積立金	6,042,480	7,241,447	△ 1,198,967
19 施設整備等積立資産	444,000,000	479,000,000	△ 35,000,000	016 次期繰越活動増減差額	1,356,770,959	1,205,158,116	151,612,843
20 人件費積立資産	13,000,000	13,000,000	0	02 (うち当期活動増減差額)	115,413,876	102,752,805	12,661,071
21 備品等購入積立資産	1,599,000	1,599,000	0				
24 工賃変動積立資産	4,073,000	4,073,000	0				
25 設備等整備積立資産	6,042,480	7,241,447	△ 1,198,967				
27 差入保証金	3,551,000	3,516,000	35,000				
28 長期前払費用	1,530,961	2,082,722	△ 551,761				
29 その他の固定資産	416,660	340,200	76,460	純資産の部合計	2,808,238,452	2,722,445,216	85,793,236
資産の部合計	3,237,487,377	3,128,958,836	108,528,541	負債及び純資産の部合計	3,237,487,377	3,128,958,836	108,528,541

ご意見・ご感想

機関紙「わだち 報」に関するご意見・ご感想などございましたら、下記連絡先までお寄せください。いただいた貴重なご意見を今後の機関紙づくりの参考とさせていただきます。

社会福祉法人 高知県知的障害者育成会
 TEL 088-855-3717
 FAX 088-855-6181